

瓊水

瓊のように清く 鉄のように強く 手をつなぎ
のびる北っ子

校長 田崎俊一郎



芸術の秋

10月も中旬を過ぎました。今年は秋らしい晴天が続く日が少なかったせいか稲刈りに苦勞したという話を聞きました。田が乾かず、機械で刈り取ることができず、一部は手で刈り取りをしたと言われていました。最近の米の値段上昇のニュースを聞くと、消費者の立場からは少しは安くはないかと思えますが、生産される方から収穫の苦勞を聞くともっと高くしないといけないのではないかと考えてしまいます。同じことでも立場によって見方は様々です。

さて、先週3日間福岡県で開催された全国小学校校長研究大会に参加してきました。その大会で彫刻家「外尾悦郎」氏の講演を聞く機会がありました。外尾氏は、非常勤講師として勤務された後、単身でバルセロナに渡られ、彫刻家として認められた方です。現在アントニ・ガウディの建築・サグラダファミリアの彫刻に携わっておられる方で、現地スペインの彫刻群の制作の様子を紹介しながら、「志」をテーマとしてお話をされました。サグラダファミリアは、ガウディの設計ですが、明確な設計図がないことやスペイン内戦で残された資料のほとんどがないこと等から、現在はガウディの残した資料や思想などから推測しながら作業を進められているそうです。お話の中でも制作する上で「ガウディを見るのではなく、ガウディの見ている方向を見る」という視点で彫刻をしている。」と話をされていました。遠く異国の地で「きっとガウディならこうつくったに違いない。」と必死に考え、それを現地の人に伝え、納得してもらうことはたいへんなご苦勞があったらと思うます。また、外尾氏は、言葉の大切さについてもお話をされました。「形だけのもの、耳に入ったものをそのまま伝えても伝わらない。その中にエネルギーを込めないと実りある言葉としては伝わらない」というお話もされました。さらに、今後の学校について「学校をふるさとにしてほしい。地域の人のまわりの方から、時には厳しく育てられた経験がきっと一人になった時、賛同してくれる人がいなくなった時に、背骨を伸ばし「自分はこうだ」とまっすぐ語るためのバックボーンになる。」と話をされていました。

絵画や書など、作品を鑑賞することで芸術にふれるのもいいですが、作品づくりに込められた考え方や思いにふれるのも芸術にふれることにつながるのだと感じられた講演会でした。「学校をふるさとに」…北小学校もめざしていきます。



子どもたちは図工の時間が大好きです。自分の思いを大切にしながら作品を作り上げています。

予習型学習

今年度北小学校がめざしている授業スタイルは予習型の学習です。毎時間の授業の区切り方を工夫し、予習を前提とした授業をすることで子どもたちの理解度をあげ、定着を図るようにしています。今日は、予習型の授業について5年1組さんの授業を見ながら、授業研究会を行いました。まだまだ取り組み始めたばかりの授業スタイルです。今日の意見を参考にしながらよりよい授業づくりをめざします。



安全に行動しよう！

子どもたちの周りには危険がたくさんあります。遊びに夢中になると、普段見えているものも見えなくなります。先日も、昼休みに中庭で遊んでいる児童が、給食センターの配送車の前に飛び出したということがあり全校で指導をしています。これまでも登下校の際に道路から飛び出し、危うく事故になりそうな危険なことがありました。10月になり夕暮れがずいぶん早くまりました。学校では17時までには帰宅するように声をかけています。こちらでも交通事故防止には大切なことです。ぜひ、飛び出しの防止・早目の帰宅についてご家庭でも声をかけてください。